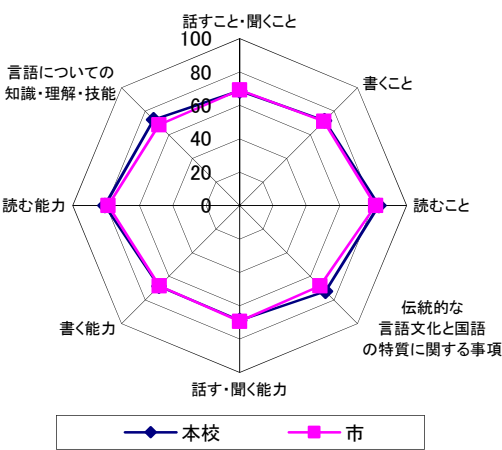


宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.8	69.3	73.4
	書くこと	72.1	71.3	74.6
	読むこと	83.4	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.6	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	68.8	69.3	73.4
	書く能力	68.3	68.1	71.7
	読む能力	80.8	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	72.8	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

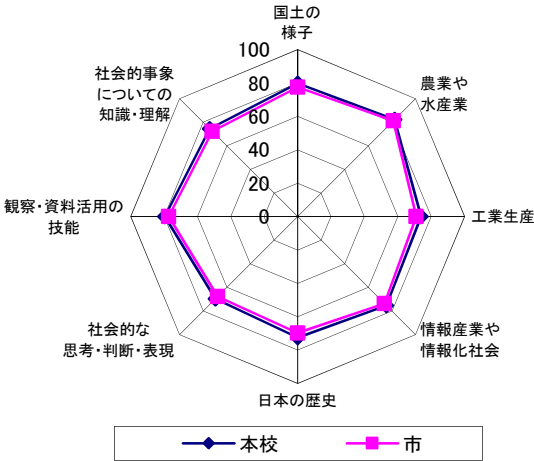
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、市の平均を0.5%下回っている。 ○聞き取りテストでは、話し方の工夫を考えながら、話合いの内容を聞く設問で、市の平均正答率を5.8%上回っている。 ●話し手の意図を考えながら話合いの内容を記述する設問の理解が不十分であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常的な学び合い活動において、話合いの観点を明確にし、情報の共通点や相違点など関係性を考える活動を取り入れることで、考えのつながりを自分たちで見出せるようにしていく。
書くこと	○平均正答率は、市の平均を0.8%上回っている。 ○国語辞典の資料を使って意見文を書く内容を理解する設問において平均正答率を4.6%上回っており、よく理解できていた。 ●グラフの内容を読み取って、文章に適切に書き表す設問や理由や事例を挙げて文章を書く設問に課題が見られた。	・自分の意見を明らかにして文章を書くことなど、国語科に限らず、他教科でも自分の考えを書く場面を増やすなど、文章を書く力をさらに鍛えていく。
読むこと	○平均正答率は、市の平均を1.9%上回っている。 ○登場人物の心情を読み取る設問や場面の描写を読み取る設問では、正答率90%を超えており、よく理解できていた。 ●説明文の内容を的確に読み取る設問においてやや課題が見られた。	・学校図書館の利用指導や読書指導の充実を図り、様々な分類の本を読めるよう指導していく。 ・新聞記事を活用した授業を取り入れるなど、説明的文章や実用的な文章を読む機会を引き続き設定していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、市の平均を4.5%上回っている。 ○第5, 6学年の漢字の読み書きでの正答率が高い状況にある。 ○敬語(謙譲語)の使い方を理解する設問での正答率が高い。	・引き続き既習漢字の練習問題などを活用して繰り返し取り組むと共に、日常の会話や作文で積極的に活用できるように促し、定着を図っていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	79.8	77.5	74.0
	農業や水産業	82.4	81.1	73.7
	工業生産	73.9	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	75.2	73.7	63.2
	日本の歴史	72.5	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	69.7	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	79.5	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	74.4	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

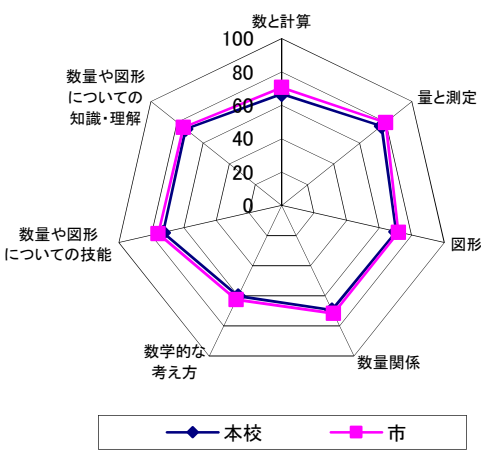
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○平均正答率は、市の平均を2.3%上回っている。 ○森林を守るための間伐についての理解度は、市の平均を13.7%上回っている。 ●日本周辺の海洋名の理解は、市の平均を8%ほど下回っている。	・世界の海洋についての理解を深めるため、白地図などを活用して定着を図る。 ・いろいろな国への関心を深め、地図上での国の場所や大陸などの名称について、視覚的資料を取り入れるなど、継続して学習できる環境を与えたい。
農業や水産業	○平均正答率は、市の平均を1.3%上回っている。 ○米の生産がさかんな地域について資料を読み取る問題では、市の平均を3.5%上回っている。 ●農業で働く人々がかかえる問題について、複数の資料を読み取り考える問題では、市の平均を1.5%下回る結果になった。	・日本の農業が抱えている課題について理解を深めるために、農業人口や農業従事者の経年変化のグラフなどを活用して考えさせていきたい。 ・習得した知識を活用して、自分の考えを見出すことに慣れてきたが、それら表現することが苦手な子がいる。資料から読み取ったうえで、自分の考えを持って表現する機会を、より充実していきたい。
工業生産	○平均正答率は、市の平均を2.8%上回っている。 ○化学工業の製品についての理解度は、市の平均を1.3%上回っている。 ○工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取る活用問題では、市の平均を4.2%上回っており、工業に関する学習内容の定着度は良好である。	・日本の工業生産に対する変化にも対応できる柔軟な考えが持てるようにするため、日常生活と密着して考える機会を与えたり、話し合いの機会を設けたりしていきたい。
情報産業や情報化社会	○平均正答率は、市の平均を1.5%上回っている。 ○医療における情報ネットワークの利便性について、資料を活用する問題では、市の平均を2.5%上回っており、情報ネットワークへの理解の深さが伺える。 ○マスメディアの種類についての理解は、市の平均とほぼ等しい状況である。	・情報化社会の有益性と危険性を十分理解できるようにするために、情報の伝え方と、メディアとの関連に触れ、興味・関心を持たせた上で、種類について学習させていきたい。
日本の歴史	○平均正答率は、市の平均を2.8%上回っている。 ○どの時代においても、ほぼ市の平均を上回っており、特に、資料から読み取ったことを表現する問題で、市の平均を4.7%上回っている問題もあり、歴史事項に関する関心の高さが学習の定着につながっていると感じる。 ●江戸時代の政治や文化など知識の面で、市の平均を若干下回っているものもある。	・さらに、歴史学習への理解を深めるために、時代ごとに学習した内容を、比較したり関連付けたりしながら、歴史について多面的な見方ができるような学習を工夫していきたい。 ・歴史への興味・関心によって、理解度にも二極化がみられるので、歴史に興味・関心をもてるような指導や学習環境づくりを図っていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.8	70.8	65.9
	量と測定	76.5	79.9	77.0
	図形	70.4	71.8	74.6
	数量関係	69.4	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	60.1	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	72.8	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	73.6	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

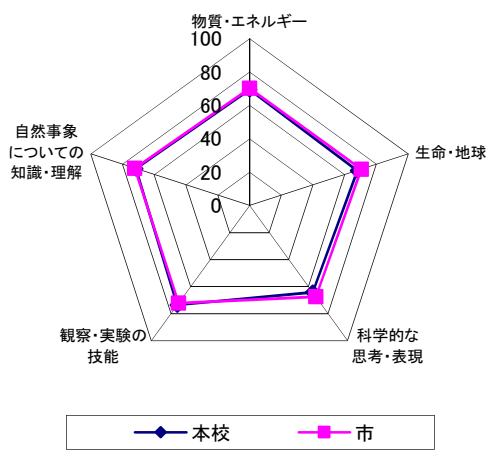
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は、市の平均を4%下回っている。 ○文章問題に合う図を選ぶ問題では、市の平均を6.6%も上回っていることから、式の意味を理解しているといえる。 ●分数のわり算においては、市の平均を15.1%も下回っており、約分の計算に課題が見られる。	・小数に限らず、他領域での学習においても、計算の仕方を数直線や図を用いて考える活動を積極的に取り入れ、さらに正確さを求めていきたい。 ・分数の問題において約分を見落とす傾向が高いため、計算問題に多く取り組ませることで学習内容の定着を図っていく。
量と測定	●平均正答率は、市の平均を3.4%下回っている。 ○「面積と体積」の問題では、ひし形の面積は80%以上の正答率である。 ●「単位量あたりの大きさ」の問題は、いずれも市の平均を下回っている。	・「単位量あたりの大きさ」と「速さ」の問題はつながりがあるので、「くらべられる量」「もとにする量」などの関係を十分におさえ、数直線や図などを用いて考え、自分で説明する活動を増やしながら定着を図っていく。 ・文章問題では、何を問われているのかを正確に捉えられるように指導を行う。
図形	●平均正答率は、市の平均を1.4%下回っている。 ○三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点についての問題では、87%の正答率である。 ●線対称な図形の対称の図形を選択する問題では、市の平均を8.4%も下回っており、線対称・点対称の性質の理解が不十分であった。	・「対称な図形」においては、作図や折る、回すなどの活動を多く取り入れ、対応する頂点や辺、対称の軸や中心との関係に着目させて、線対称と点対称の性質に気付かせ、習熟を図っていく。
数量関係	●平均正答率は、市の平均を2.3%下回っている。 ○「文字の式」の問題は、いずれも市の平均と同等程度であった。 ●グラフから割合を読み取り具体的に説明する問題では29.5%と正答率が低かった。	・比較量を求める学習の際には、具体物や数直線を用いて整理する活動を多く取り入れ、百分率について正確に理解できるよう指導する。また、実生活に結びつけた問題を解くことで割合の意味を定着させ、習熟を図る。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.5	70.3	69.0
	生命・地球	67.9	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	64.3	67.5	66.4
	観察・実験の技能	73.6	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	71.7	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●平均正答率は、市の平均を0.8%下回っている。 ○リトマス紙につけたときの色の変化から、液性を指摘する問題はよく理解しており、高い正答率を示している。 ○ふりこの周期はふりこの長さに依存することを理解し、同じ周期になるふりこを選ぶことはよく理解しており、市の正答率を5.9%上回っている。 ●物のとけ方で、実験の結果が違った理由を推測する問題では、市の正答率を8.5%下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の意味を正しくとらえて取り組ませ、実験の内容と結果の関連性が理解できるよう指導を工夫改善していく。 ・もののとけ方に関する単元では、正確に理解していない児童が多く見受けられることから、ろ紙の役割や温度との関係などを、適時復習を繰り返すことで、定着を図るようにする。
生命・地球	●平均正答率は、市よりも2.5%下回っている。 ○動物のからだのつくりとはたらきに関する問題では、腎臓の働きをよく理解できていて、市の平均よりも5.7%高い正答率を示している。 ●月と太陽の内容では、太陽と月の位置関係から俳句がよまれたときの情景を推測する問題が、市の正答率を8.5%下回っている。	・生命・地球に関する図書資料や映像資料を多く活用し、実験や観察が難しい内容についての定着につなげていく。 ・月や地球の動きといった観察実験のしにくい単元においては、映像資料の活用や模型による演示を取り入れて、知識の定着につなげていく指導を行う。また、家庭学習等で児童が自分で確認できるようにさせたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の思いを豊かに表現し、主体的に学び合う児童の育成	児童が自分の考えを臆せず表現し、話し合うことができるように、月に2, 3回、朝の活動の時間に学級の実態に合わせた形態で話し合い活動を行うことで、話し合うスキルの向上を図る。	話し合うことに慣れ、学び合う活動が定着したことで、「話すこと・聞くこと」の力が着実についた。定型的な話し合いは身に付いてきたが、話が広がったり深まったりしたときに全体をまとめることに課題がある。
各教科における、まとめ・振り返りの充実	授業のまとめ・振り返りを、各学年の実態に応じた手立てを与えて、自分の言葉で文章を組み立て表現させる。授業内容をまとめて自分の考えを文章にすることで、書く力を高めるとともに学習内容のさらなる理解につなげる。	まとめ・振り返りの時間の充実により、次時の授業へのつながりが意識され、単元全体を見通して課題解決に向かう姿が見られた。社会科においての理解の深まりに表れたと考える。一方、話の全体や自分の考えを分かりやすくまとめた文章にすることには課題が見られる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

「書くこと」の力を高めるために、国語以外の教科で「まとめ・振り返り」を丁寧に行い、自分の考えを文章にすることを続けていく。また、漢字の書き取りの力を高めるために、単調な練習に終始することなく考えながら学習できるように、各学年の実態に合わせて授業と家庭学習とでバランスよく取り組む手立てを与える。

複数の表やグラフ、長文から必要な情報を取り出すことに課題が見られた。多くの情報から取捨選択する力をつけるために、教科を問わず与える教材を吟味し、必要な情報を活用する力を養う。